文献センター通信・リベーロ

第4号

1995年11月15日発行

定価／３００円
（年４回発行）

九月の作業のご報告

九月十五～十七日、資料整理の作業に取り組みました。当初、かなりの広さを感じさせた書庫も、床部分に背中合わせの本棚が三列置かれると、さすがに狭くなったといえます。

■主要資料（単行本）の配列を終える

本の配列等の細かな作業は後回しにして、主要な資料をおおまかな分類で並べること、何よりも積もったチリを払い、とりあえずの定位置に置くことで、今回の作業は一応の区切りをつけました。

並べるだけでも、新しく気付くことや「あの本がないな」と思い当たることなど、結構、全体が見えてくるものです。あとはさらに細かい分類と配列、スペースが不足してくれば、ダブッた資料を保管のために別置きにするなどの作業が必要になろうと思われます。

あとは、雑誌やパンフ・ミニコミ類といった資料をどう整理していくかに取り組まなくてはならないでしょう。

■宝の持ち腐れにならないように

棚がゆったりしたせいか、かなり多いと思っていた欧文文献が意外と小じんまりと本棚二本に収まってしまいました。それでも戸田三三冬さんによれば、貴重な本が思ったより多いとのこと。あとは、どう活用するかという基本的な課題が迫ってきます。

当初、九月にデータベースのデモンストレーションができるようにと考えていたのですが、入力作業に手を着けられないままですので、1年後の課題にしたいと思います。

本号の内容

2 国際社会史研究所からジャビ氏来訪／寄贈書
3 「自由経済研究」刊行
4 連合論ノート
6 データベース入門

アムステルダムの国際社会史研究所のジャビ氏が来訪

十月の半ば、オランダの国際社会史研究所の職員ジャビ（ヂェーベ）氏が、富士宮の文献センターを来訪した。日本の運動史関係の資料センターを十カ月間ほどの予定で見学・意見交換している一環として、立ち寄ったもの。文献センターでは、七十年の週間アンポ創刊号やその他出版物を写真にとったり、メモをしたりしていた。十分な意見交換はできなかったが、紹介代わりにパンフレットから同研究所についてほんの一部訳出する。

「全体主義はその反対者たちに復讐する。敵対する者たちの遺産も紛失しがちだ。一九三三年、権力を得たヒトラーによってベルリンで起きた焚書はその例である。こうした例は権力者が機会があれば、いつでもどこでも反対者であれば個人を問わず団体を問わず、その本、パンフ、蔵書を破壊しようとする。」

国際社会史研究所、オランダのアナキズムのこと

ロック

十四年前、私はオランダのアムステルダムに住んでいました。当時、特に興味を引かれたのはアムステルダム大学図書館で、歴史的文献や文物を展示してありました。収蔵品は、決して古い物ではなく、驚かされたのは反体制運動関係の物でした。そこを管理する図書館員が同志ヂェーベさんで、最近、日本を訪問しました。

オランダには、無政府主義運動は一つだけではなく、いろいろのグループがあります。ヨーロッパの無政府主義の歴史の中では、オランダには長い伝統があります。それでも、（オランダには）伝統的なグループもあるし、伝統と関係を持たないグループもあります。基本的、世代間の差別は存在しないといえます。六十年代中期の非伝統のPROVOは大きいグループです。街闘デモも多い。他の人々は自ら無政府主義の宣言はしません。生活の中で実践します。でも、社会参加の運動の方向は同じです。例えば、空き家を占拠する運動（squatting movement）中に多くの人が宣言するのは無政府主義者です。今、四～五つのグループが存在し、三～四種類の新聞を発行しています。最高では五千部も発行されています。

ヂェーベさんはそのアムステルダム大学の社会運動史図書館の職員です。所属は国際社会史研究所です。

ヂェーベさんの文献活動についての考え方はこういうものです。（一）記憶のために、ある世代の集体紀線を保存する（二）団結のため、同時代の人同士あるいは別世代間で交流ができる方法だと思と考える。文献紀線の収集活動に多くの人が参加すること（三）活動中に編組（編集）の方法や意志を伝達できる（四）個人の時空界隈を超越し、意識と視野も広くなる（五）運動史と理念の持続性を維持する。

文献センターから

●寄贈書

戸田三三冬氏より
『パルチザンの日記』

春木富三氏より
『スペクタクルの社会』
（ドゥボール著　春木訳）

西田秀雄氏より
『スペインの理念』（ピダル他　新泉社　一九七四年）
『甦るヴェイユ』（吉本隆明　JICC　一九九二年）
『若き木下尚江』（中野孝次　筑摩書房　一九七九年）
『現代ヨーロッパ社会思想史・上』（ルフラン　社会思想社　一九七六年）
その他雑誌・機関紙誌など。

『自由経済研究』創刊される

前号で刊行予告と簡単な内容紹介をした同誌が、十月一日に創刊された。創刊号の内容および今後の予定は別掲の通りである。なお、同誌で取り上げているシルビオ・ゲゼルの考え方の概要を紹介するセミナーが、『スリーAの会』の主催で行われた。

セミナーは、十一月三日（金）午後六時三〇分から大久保地域センターで開催された。テーマは、「今、なぜゲゼルか」、レポーターは森野栄一。

【報告概要】

改めて考えてみると、世間の常識のなかにはいくつものごく簡明な真理をみつけることができます。地獄の沙汰も金次第、財産抱えて墓場までいくのかよ、金は天下の回りもの、働かざる者食うべからず、金が敵の世の中で……などなど、いくらでも出てきます。

こうした常識の革新性に改めて気づかされたのは、プルードンやゲゼルを読んでよくよく考えてみれば、なるほど、社会に改革が必要なこと、そしてその方法はじつに簡明な定式になるということでした。

この報告ではかつてゲゼルというドイツ人を中心に多くの人たちが推進した自由経済運動のエッセンスを報告したいと思います。内容は次のようなものになります。

①なぜお金が問題なのか。不労所得権について

②自由経済運動の三大話

●貨幣の権力と自由貨幣（消滅貨幣、スタンプ貨幣）

・自由貨幣の仕組みとその実践例

・自由貨幣は「魔法」か。世の中のほうこそ貨幣の魔法にかけられている

・ケインズの自己利子率論を究極の論拠とする自由貨幣批判の誤解

・ゲゼルの基礎利子論の革新性

●貨幣購買力の安定化

・インフレに反対する理由

・デフレが問題なわけ

・ゲゼルの指数通貨の意義

●自由土地

・土地公有化の方法

・それには自由貨幣が必要な理由

③社会主義にとって経済はすこしも特権的な地位を占めるものではないが、運動のどの段階でも具体的に主張しうる経済綱領が必要なのでは、という論点。

自由経済研究第1号

〔特集〕シルビオ・ゲゼル素描

発刊の辞

ゲゼルに眩惑　森野栄一　五

シルビオ・ゲゼルの社会改革の貨幣理論　D・ディラード　二二

シルビオ・ゲゼルと重農主義者とアナキスト（上）　G・バルチュ　三〇

社会化に関する諸概念(1)　奥沢邦成　四三

・社会化を定義するための経済的社会的諸条件

社会化を定義するための経済的

On the Inauguration of the Gesell Resarch Society's Bulletin "Study of Free Economy"　六〇

次号案内

第二号　シルビオ・ゲゼル素描Ⅱ

スタンプ代用貨幣　I・フィッシャー

金とフランス並びに世界に対するボアギュベールの現代性　S・フェルナンデス

市場経済の貨幣的条件　M・アレ

「保守 vs リベラル」の貧しい選択　奥沢邦成

〈十一月刊行〉

第三号　無償信用論

永久運動と無償信用　M・エルラン

D・ズーアの最適流動性概念について　森野英一

他〈十二月刊〉

第四号　ケインズ再解釈

ケインズとプルードン　D・ディラード

ケインズの革命戦略　M・エルラン

他〈九六年一月刊〉

以下、特集予定

●『自然的経済秩序』序文を読む

●シルビオ・ゲゼルの貨幣理論

●F・ソディとエコロジー経済学

●C・H・ダグラス、生産主義と会計主義

●バイエルン革命におけるシルビオ・ゲゼル

●土地問題と国有化

●T・クリステンの経済理論

連合論ノート

森野栄一

（その3）

第2回 アナルシーとフェデラリスム

（前回の要点）

●マルクス、エンゲルスにおける民族問題の階級闘争への従属化

●コミンテルン的観念の破産

◆均質的プロレタリア意識に立つ世界プロレタリアートなる観念

◆プロレタリア権力によるブルジョア支配権力の制圧

←

◆これが階級間の敵対関係ばかりか諸国家の敵対関係をも消滅させていくという信仰

←

◆したがってソ同盟なるものが、普遍的な（世界的な）社会主義組織の萌芽であるとする信念

■ソコデ、今回の問題

今日、世界全体を領有しアスの世界を構想しうる観念は存在するのか？

→←

かつて、キリスト教は古代世界において、ナショナリティの制約を超えた普遍的観念として成立すると同時に、他方で諸民族をそのうちに統合し、それらにおのれの位置づけを与えた。つまり、万民法を成立させる観念としての力をもっていたが、

←

共産主義は現代世界において、宗教を克服できないばかりか、それが彼岸的に実現した観念世界に対置する世界像を提起できないできた。

■ソレデハ

〈現代世界における新らたな「万民法」とは？

（A）そこで各ナショナリテ（民族性）がおのが位置を見いだしうる普遍的観念とは？

（B）そのもとで、各民族性の間の関係に具体的規定を与える論理はなにか？

←

〈1〉（A）とはアナルシーで（B）とはフェデラリスムか

〈2〉（A）とは「平和」で（B）とは、無意識的に信じ込まれているように「国連」か

【モチロン】

☆アナルシーと平和とは矛盾しない。「アナルシーは平和の真の定式である」（プルードン）

☆国連は、あるタイプのフェデラリストにとってはフェデラリスムの成果である。

←

ここにはいろんな問題がある

●（A）と（B）との関係（特に〈1〉の場合）

○アナルシーとは社会的諸闘争に解決を与える真の定式であることの論証

○〈1〉と〈2〉との関係。特に、フェデラリスムの起源に由来するフェデラリスム自体の問題。

↓政治的連合主義。これは、ネーションステート（民族国家）として成立している近代国家を克服できない。

↓アナルコ・フェデラリズム。例、プルードンやバクーニン。

←

○アナルシーには多岐にわたるフェデラリスムを批判的に検証しうる基準が存在するのだろうか？

○アナルシーはステート（国家）を批判し、ネーション（民族）にその真の場と姿を与える論理たりうるのか？↓ステートの否定＝ステートとネーションの混合の否定

↓ネーションの間の関係の再構成。つまりアナルシーはいかなるフェデラリスムのなかでおのれを実現するのか。などなど

■ソコデ

今回はこれらの問題に接近するために、共産主義者やアナキストにとって共通の信念であるかのごとき、国際主義（インターナショナリズム）の諸限界をいかに確定するのか、を考えておきたい。

●左翼運動におけるインターナショナリズムは、これが克服せんとする資本家社会とそのイデオロギー（自由・平等・友愛なる、人間と市民の権利の〈普遍性〉への信仰）の普遍性及び国際性に規定されている↓この問題は省略

←→

●左翼運動はこれに対置する信念をもっている。

プロレタリアートがその主体であるところの、社会的解放の普遍性に関する信念がそれである。

＝

これは、世界資本主義（資本主義の世界性）に対して、万国の労働者は団結つまり、〈結合する〉必要性あり、という事実のなかで正当化されている

（マルクス、エンゲルス『共産党宣言』をみよ）

←

これはマルエンの時代の〈実践的な〈必要性の確認〉というものである。それ以上でも以下でもない。

■ダガ

レーニン主義の登場（ロシア革命）

●インターナショナリズムは国際秩序を整序し、規定する〈教義に高められる〉

↓よく知られているロシア革命の位置づけを想起のこと

←

ロシア革命は資本家的生産様式の危機によって生み出された世界全体にまで拡大していかざるをえない

発展的な革命の過程の第一段階である

（↓世界革命の観念）

!!トコロガ、周知のロシア革命の変質

革命は世界的で普遍的

←

しかし一国で革命が起きる

←

そこで実現された社会主義政府は国家に捕らわれたまま

←

革命的諸原理は国家理性に捧げられる

という次第

◆ソコカラ

←

〈革命思想の本質的な構成要素、社会的解放、普遍的連帯性は歴史の底流へと追いやられ〉

←

〈インターナショナリズムは主権的国家を問題とすることなく、諸国家の単なる協同が平和の問題を解決するという幻想へ向かう（平和的共存、スターリン主義）

←

ヨウスルニ

◆インターナショナリズムは絶対的主権性をもつ諸国家の間の平和的諸関係

◆「自由主義」諸国家対「社会主義」諸国家という図式

■…こうした経過のなかで、政治体制や経済体制がいかなるものであれ、人類の主権国家への分割という現実への取り組みは存在しなかった。

インターナショナリズムにおけるレーニン主義的要素を再確認するだけでは不十分である。なぜそうなってしまったのか、を問うべき。

○…歴史の底流へとおしこまれてしまった諸国民の平等と連帯性を歴史的現実の具体性のなかに再登場させるのに、いまもって、インターナショナリズムはなんらかの意義があるのか。

かつてアメリカ革命に影響された欧州人のフェデラリストたちがヨーロッパ合衆国を構想した。これに対してプルードンは、ただひとつの強国による一大君主国へとヨーロッパが変質してしまうであろうと警告している（『連合主義論』）ここではネーション・ステートの主権国家性を問わない単なる国家間の連合・同盟という計画の不十分性が見抜かれている。この構想でも主権国家の相互制約という前進性がわずかに評価されはするが、しかし、そこでは、国家間の発展の不均等性（力の不均衡）によって連合・同盟が変質するのは不可避であるとされている。

今日の世界状況をかかる観点よりみれば、米ソの対決・依存構造とその変化が理解できる。

○…インターナショナリズムはかかる状況をとらえるのに無力である。つまり、一方で、民族集団レベルでの自由（すなわち自決・独立）の価値観にたつ流れが底流としてあり、しかし他方では主権国家の同盟策とその一大強国による支配、そしてそれらの間の対決・依存という状況のなかで、インターナショナリズムは、世界レベルでみた人間解放の基本的条件である〈平和〉に関して無力である。

○…主権国家を問う論理は、さしあたりネーションステートの枠組みの中で獲得される。社会的な解放闘争が闘われ、なんらかの社会体制、経済体制が選択され、政治体制の構成が問われていくなかで、である。

以下省略

の資料が文献センター所蔵であり、一般に公開されていることを示しています。非公開の場合はcloseになります。

「キーワード」は、検索用に記述します。必須ではありませんが、カード閲覧者にとっての有益な情報になると思います。

「作成日」には、このカードの作成者名と作成年月日を記述します。文責です。

上記のように、項目カードに記述する内容は、かなり細かくなっています。この細部の項目は、最終決定ではありませんから、今後、変更されることがあるかもしれません。

■「ア」と「ｱ」は違う

フリガナを記述するとき、半角カタカナに限定しました。これはコンピュータでは「ア」と「ｱ」はまったく違う文字として扱われるからです。

コンピュータの計算能力は、人間のそれをはるかに越えていますが、それだけです。人間にとって「ア」と「ｱ」の違いは文字幅だけであり、同じカタカナの「ア」であることが即、分かります。

しかし、コンピュータはカタカナの「ア」とは認識しません。単なる文字コードとして認識するだけであり、全角と半角の「ア」は文字コードが異なるためまったく違うものとして扱われます。

フリガナに半角文字で入力しなければならないのは、コンピュータの都合です。プログラムで半角、全角文字の違いを解消することもできますが、とりあえず、コンピュータの都合に合わせて半角文字で記述してください。

■入力専用アプリケーション

前回ご案内しましたように、入力専用アプリケーションを用意しました。とりあえず、図のWindows版を用意しますので、必要な方はリベーロ編集部にお申し込みください。送料込みで１０００円でお分けします。

入力専用アプリケーションですから、前回掲載した画面とはイメージが異なり、図のように簡略化されています。その点はご了承ください。入力、一覧表形式表示、追加、修正、削除などが行えます。

配布時期は1996年初頭を予定しています。

データをまとめる手間を軽減するために、このアプリケーションをご利用ください。

●Windows版の制限事項

Windows3.1、Windows 95、WindowsNTが稼働する機種。

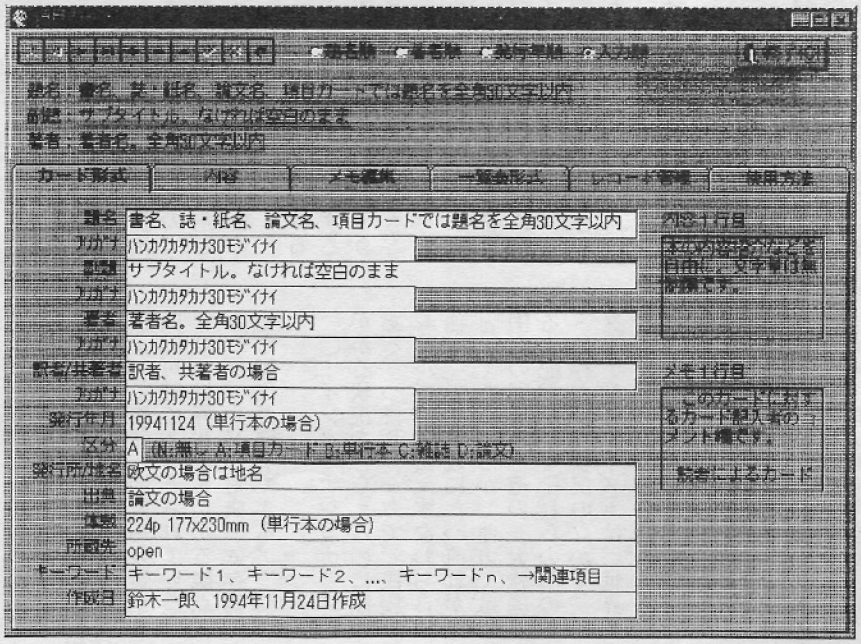
画面解像度は800×600ドット以上が必要です。640×400ドットあるいは640×480ドットには対応していません（カード画面がはみ出します）。

画面構成は、図のようにノートブック形式を採用しています。「カード形式」のページで基本的な項目を記述します。

「内容」および「メモ」ページでは、文字量32kバイト以内で資料の内容や、カード作成者によるメモ書きが行えます。なお、文字量の制限は入力専用アプリケーションでの制限であり、「項目カード」では無制限です。

「一覧表形式」ページは、表計算ソフトと似た画面になります。この画面でも項目の記述ができます。

なお、「レコード管理」ページは現在、制作中です。



データベース入門③

ヒロ・イトウ

■「項目カード」の項目

前号(第３号)では「項目カード」の画面を掲載しました。今回掲載の画面は、入力専用アプリケーションの画面です。これについては後から紹介します。

項目カードには、上から順番に「題名」、「題名」、「副題」、「副題フリガナ」……というように項目が並んでいます。「題名」には、書籍の場合にはその書名を記述し、雑誌や機関誌などの紙誌類は、その紙誌名を記述します。

論文の場合、掲載されている紙誌名ではなく論文名を記述します。その論文が何に掲載されたかは、別項目の「出典」へ紙誌名を記述して明らかにしておきます。

なお、印刷物として発行されていない個人史や運動史年表などの資料は、項目カードのデータそのものとして保管・蓄積されます。これらのデータも題名を付けて「題名」に記述します。

そのほか、資料がどのようなものであるかに従い、副題を付けたり年号を記述したりします。

以下、単行本を例にとって、データの入力方法を説明します。

●単行本での記述方法

例えば、単行本の場合、その題名そのものを「題名」欄へ記述します。次にその読み方を「題名フリガナ」欄へ半角カタカナで記述します。題名と題名フリガナは必須項目です。題名が記述されていなけば、その内容を推測することができなくなります。また、題名フリガナが記述されていないと、題名で並べ替えることができなくなってしまいます。

「題名」は全角30文字以内で記述します。そのフリガナを半角カタカナ30文字以内で記述します。30文字以上になるときは、切り捨てて記述してください。

項目カードに記述されるデータは数千、数万になることが予測されます。50音順あるいはＡＢＣ順に並べ替えることができるかどうかは、この「題名フリガナ」にデータが記述されているかどうかで決まります。

題名フリガナを半角カタカナで記述するように決めたのには、絶対的な決まりがあるわけではありません。単にデータ量の節約だけです。「全角ひらがな」としても、並べ替えには支障はありません。

ただし、半角カタカナと全角ひらがなを混在することはできません。並べ替えるときの基準が異なってしまうからです。

項目カードでは、前述のように「半角カタカナ」30文字以内で記述することに決めました。手持ちの資料を項目カードに記述する機会がありましたら、この取り決めを守ってくださるようにお願いいたします。

「副題」と「副題フリガナ」は副題があるときに記述します。例えば、全集を記述するときは、副題が必要になります。

「著者」と「著者フリガナ」も必須項目です。これも全角30文字以内と半角カタカナ30文字以内で記述します。

「著者フリガナ」は著者順にデータを並べ替えるときに使用します。「著者」に記述されている著者名を使えばいいと思われるかも知れませんが、このデータは全角の漢字を含みます。コンピュータでデータを並べ替える場合、内部に記録されている文字コードというものを基準にします。

この基準は使用頻度を基準としたいいかげんなもので、辞書順のようには並べ替えることができません。そのため、50音順に並べ替えるためにフリガナを付けるわけです。

ただし、この50音順も相当いいかげんなものですが、ある程度の規則性はあります。

「発行年月」は「19941124」のように半角数字をつなげて入力します。１月１日なら「19940101」のように０を補います。これも発行年順に並べ替えるための便宜的な手段です。

「区分」は、その資料の形態および所有状態を表します。項目カードのデータとしてのみ存在するときは「Ａ」の「項目カード」、単行本は「Ｂ」、雑誌は「Ｃ」、論文は「Ｄ」です。

「発行所／地名」には、出版社名などを記述します。欧文の資料の場合は、その発行地の地名を記述します。

論文は「出典」に掲載紙誌名を記述します。

「体裁」は単行本の場合に記述します。ページ数と大きさです。

「所蔵先」でopenとされているときは、そ

自由経済研究
定期購読者募集
各号A5判・六十頁平均
一号分＝千二百四十円、五号分＝五千円、十号分＝九千五百円（いずれも送料込）
申し込みは左記まで
ぱる出版
東京都新宿区本塩町八番地
電話　〇三(三三五三)二八三五
FAX〇三(三三五三)二八八七
振替
東京〇〇一〇〇-二-一三一五八六

アナキスト連盟機関紙
『自由意志』
定期購読者募集中
A4判・六～八頁・月刊
〈編集・発行〉アナキスト連盟
〒606　京都市左京郵便局私書箱57号　ARP気付
〈購読料〉
1部　三百円、年間　三千円（送料共）
〈振替口座〉
00950-2-1460
AR編集局

編集後記

◎…リベーロ第4号をお届けします。3月以来富士宮にはご無沙汰ですが、着々とセンターはその形を整えつつあるのが分かります。龍さんの努力には頭が下がります。

○…私リベーロの編集・割付をしています。なんと言っても、3カ月に1度というのは月刊に比べればだいぶ楽になったはずです。それなのに多少遅れ気味になるのは、なぜでしょう。

○…国際社会史研究所の訳出を少ししました。元来、語学には疎いもので、英語もろくに分かりません。ですから、誤訳があったら次号で直しますが、今回はお許しください。（S）

●お知らせ

【定期購読者だった方へ】
休刊によって生じた残号分は、このリベーロ第4号の発送をもって、清算させて頂きました。次号もお送りいたしますが、その時に、あらためて継続の意思の有無を確認させて頂きます。

定期購読者で、リベーロが届いていない友人等がいらっしゃいましたらお知らせください。

【会員の方へ】
文献センターの会員の方には会報として送付します。購読料は会費に含まれています。

リベーロ編集部

編集を手伝ってくださる方は、名乗り出てください。皆さんの助けが必要です。

原稿を募集しています

リベーロは読者からの原稿を募集しています。地域・職場からの運動の報告、集会の告知などナマの情報、最近または昔読んだ本の書評・感想、映画や音楽・絵画などの感想、その他。最近の研究の成果、論文なども大歓迎です。

長文は、分載にしていただくこともあります。できるだけ、二ページ以内に収まるようにしてください。リベーロ一ページは約千八百字です。タイトル分をとると四百字詰め原稿用紙で四枚くらいです。

原稿は手書きの場合には当方で入力しますが、電子媒体にて送っていただければ助かります。ワープロ使用の場合はテキストファイル形式で、フロッピーディスクで、または電子メールで送ってください。次号締め切りは1月25日です。

【送り先】
（郵送の場合）
連絡先＝奥沢まで
（電子メールの場合）
PFC00170（Nifty-Serve）または T_SATOU(A-NET) の佐藤　徹まで

文献センター通信・リベーロ　第4号
一九九五年十一月十五日発行
発行所／文献センター
編　集／リベーロ編集部
連絡先／東京都新宿区本塩町8
エーデルホーフ内　奥沢邦成
定　価／三百円（送料込）
年間定期購読料（年四回発行）／千二百円（送料込）
郵便振替口座
00150-1-82622
リベーロ編集部